

ハノイ国家大学人文社会科学大学・人間文化研究機構
学術交流協定締結式・国際シンポジウム
(11月12日, VNU人文社会科学大学)

ファム・クアン・ミン ハノイ国家大学人文社会科学大学学長
平川南 人間文化研究機構 機構長
御列席の皆様,

●本日, ハノイ国家大学人文社会科学大学及び人間文化研究機構による学術交流協定締結式及び国際シンポジウムの開催にお祝いを申し上げますとともに, 日本国大使館を代表して, 一言ご挨拶を申し上げます。

●現在, 日ベトナム間は史上最高の関係とされています。両国の指導者間では政治・安全保障上の利益を共有するとともに, 経済分野では去年及び一昨年の日本の対ベトナム貿易投資額は世界一位となりました。また, 日本に住むベトナム人は現在約39万人(国別3位), ベトナムの在留日本人は約2万3千人でいずれも過去最高です。

●昨年, 日ベトナム両国は国交関係樹立45周年を迎えました。その間, 停滞期もありましたが, 特に, 1992年の対ベトナム援助再開後に, 両国は急速に関係を発展させてきました。学術分野においては, ODAをベースとした工学・農業・医療などの自然科学分野が主流だったと思います。

●一方, 日ベトナム両国間であらゆる分野で関係が緊密化している背景に, お互いの文化的親和性の高さ, 歴史的繋がりがあります。本日, 日本及びベトナムを代表する, 人文科学研究機

関同士が手を組むに至ったことは、この分野の研究が拡大し、日ベトナムの国民間の友好関係の基盤がますます深化することに寄与します。本日の行事は、時宜を得たものであり、深く感謝申し上げます。

●さて、ハノイ国家大学人文社会科学大学と日本との関係を考えるとき、偉大なる歴史学者ファン・フィ・レー（潘輝梨）先生を思い起こさずにはられません。日ベトナム関係が厳しい状況にあった1980年代、ファン・フィ・レー先生は、ベトナム歴史学会会長、越日友好協会副会長として、今はユネスコ世界遺産となったホイアン旧市街の日本の協力による保存事業、独立の英雄・ファン・ボイ・チャウの東遊（ドンズー）運動に光を当てる等、日ベトナム間の重要な人文研究の基礎を作っていました。特に、1995年にハノイ国家大学人文社会科学大学東洋学部長に就任後、ファン・ハイ・リン先生など、多数の優秀な日本学研究者を育ててこられました。

●昨年、残念ながら、ファン・フィ・レー先生はお亡くなりになりましたが、生前、梅田邦夫大使に語った言葉として、「個人、国家、国際システムのいずれのレベルから分析しても、日本はベトナムにとって、最も重要かつ信頼できるパートナーである。現在の地域・世界情勢下において、日ベトナム間には自然のパートナーシップが醸成されている」と、両国関係について述べられました。

●歴史学者の視点からのファン・フィ・レー先生のお言葉は深いものであり、現在、日本とベトナムに関わる全ての方々の胸に響きます。そして、未来に向けて、このパートナーシップを強固にしていくには、日ベトナムの国民間で、お互いの文化・歴史への

理解・協力・共感を広げていくことが重要となります。ハノイ国家大学人文社会科学大学及び人間文化研究機構の皆様が、本日の国際シンポジウムを含め、今後も両国の人文研究を、ますます促進されていくことを心から期待いたします。

●最後に、皆様の御健勝、日ベトナム人文研究の発展、日越関係の更なる強化を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(了)